

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和5年3月2日(2023.3.2)

【公開番号】特開2021-159287(P2021-159287A)

【公開日】令和3年10月11日(2021.10.11)

【年通号数】公開・登録公報2021-049

【出願番号】特願2020-63526(P2020-63526)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028 (2006.01)

10

A 6 1 B 5/16 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/028

A 6 1 B 5/16 400

【手続補正書】

【提出日】令和5年2月21日(2023.2.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検眼の光学特性を自覚的に測定するための検眼システムであって、前記被検眼に向けて視標光束を出射する視標呈示手段と、前記視標光束の光学特性を変化させる矯正手段と、前記検眼システムの動作を制御する制御手段と、

30

前記被検眼の測定が開始された開始タイミングであって、前記制御手段によって前記視標呈示手段または前記矯正手段が制御された開始タイミングと、前記開始タイミングよりも後の応答タイミングであって、応答入力手段によって前記測定に対する応答信号が入力された応答タイミングと、に基づいて、前記測定の開始から応答までに要する反応時間を取得する反応時間取得手段と、

前記反応時間取得手段により取得された前記反応時間を出力する出力手段と、を備えることを特徴とする検眼システム。

【請求項2】

請求項1の検眼システムにおいて、

前記反応時間取得手段は、前記反応時間として、異なるタイミングにて取得される第1反応時間と第2反応時間とを取得し、

40

前記第1反応時間と前記第2反応時間とは、前記開始タイミングと前記応答タイミングとの少なくともいずれかが異なるタイミングであって、

前記出力手段は、前記第1反応時間と前記第2反応時間とを比較可能に出力することを特徴とする検眼システム。

【請求項3】

請求項1または2の検眼システムにおいて、

前記制御手段は、前記視標呈示手段および前記矯正手段の少なくともいずれかを制御可能であって、前記反応時間取得手段により取得された前記反応時間に基づいて、前記検眼システムの動作を制御することを特徴とする検眼システム。

【請求項4】

請求項1～3のいずれかの検眼システムにおいて、

50

前記出力手段は、前記反応時間取得手段により取得された前記反応時間とともに、前記状態取得手段により取得された前記検眼システムの状態を出力することを特徴とする検眼システム。

**【請求項 5】**

被検眼に向けて視標光束を出射する視標呈示手段と、前記視標光束の光学特性を変化させる矯正手段と、前記検眼システムの動作を制御する制御手段であって、前記視標呈示手段および前記矯正手段の少なくともいずれかを制御可能な制御手段と、を備えた、前記被検眼の光学特性を自覚的に測定するための検眼システムにて用いられる検眼プログラムであつて、

前記制御手段に前記検眼プログラムが実行されることで、

10

前記被検眼の測定が開始された開始タイミングであって、前記制御手段により前記視標呈示手段または前記矯正手段が制御された開始タイミングと、前記測定の開始よりも後の応答タイミングであって、応答入力手段により前記測定に対する応答信号が入力された応答タイミングと、に基づいて、前記測定の開始から応答までに要する反応時間を取得する反応時間取得ステップと、

前記反応時間取得手段により取得された前記反応時間を出力する出力ステップと、  
を前記検眼システムに実行させることを特徴とする検眼プログラム。

20

30

40

50